

令和5年度

かほく市総合教育会議  
議 事 録

令和6年1月25日



## 開 会

### 【山田教育部長】

令和 5 年度かほく市総合教育会議を開催します。  
まず初めに、油野市長よりご挨拶をお願いいたします。

## 市長あいさつ

### 【油野市長】

まずは、日頃からかほく市の教育行政の推進にご尽力いただき感謝申し上げます。

1 月 1 日に発生した能登半島地震では、奥能登地域で甚大な被害をもたらし、かほく市においても震度 5 強を観測し、大崎地区での液状化現象など大きな被害が出ています。発災直後は、29 の避難所が開設され、最大で 1,099 名の方が避難されました。避難拠点となっていた学校施設については、始業式の始まる日までに、少しずつ閉設や宇ノ気老人福祉センターへの移設を進め、被害の大きかった大崎地区にある大崎区民会館との 2 施設として、避難をして頂いています。罹災証明の申請は 1,071 件、うち住居は 992 件でありました。等級判定については 10 日から 12 日の 3 日で赤い紙、黄色い紙、緑色の紙を貼って頂き、15 日の週から群馬県に応援に来て頂きまして、昨日の時点で 77%が終わったということをございまして、中には全壊が 7 件、大規模半壊が 67 件、中規模半壊が 2 件、半壊が 94 件と半壊以上が 170 件という数字になっております。

現在避難所は大崎については先週日曜日に閉鎖をしまして宇ノ気の老人福祉センターに移って頂きました。6 世帯 20 名の方が避難をしております。この方々については、みなし仮設住宅であったり、空き家であったり、またかほく市の公営住宅に入ってもらえるように決まっているということで安心しております。ただ大崎の大きな被害が出た皆さんについては決して住居が決まっているわけではなくて、親戚の家とか、奥さんのお里に行ったりとか、また水道についても 1 月 2 日の朝から断水をしました。これについては去年の断水とは違いまして、石川県の導水管が破断したことによって、発災直後に県が水を停止したことにより、かほく市では 6 割から 7 割の給水量に影響があり、復旧はいつになるかわからない状況でしたけれども、通水をしたのが 14 日、ただ、通水はしても屋内配管については破断しているところが多くあり、業者も手一杯のため、お願いしてもなかなか来てくれないという、こんなことが今でも続いている状況でございます。下水道についてもずっと使えない状況でありましたけれども、昨日の時点でようやく 20 件ぐらい仮復旧ができましたが、本復旧には 6 箇月以上もかかるという状況であります。

また、先程知事から電話がありまして、復旧対応への支援について国に電話連絡しますとのことでした。被害の大きかった能登地区の被災地からかほく市へ避難をして、児童生徒が転校してくることとなり、現在 12 名が転校している状況であります。お互い助け合っていくしかないなと思っていますけれども、皆様のご理解を頂ければと思います。

冒頭長くなりましたけれども、去年は部活動の地域移行についてでございました。今日はこども家庭センターの取組と学校との連携について、不登校児童生徒対策について、

熱中症対策及び異常気象対策についての3件を協議するということでございます。かほく市の大きな市政の柱として子ども達の支援として、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、皆さんとしっかりと連携をしながら、ご理解とご協力をよろしくお願いをしまして挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【山田教育部長】

かほく市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき、会議の議長は教育長とします。ここからの議事進行は、議長である山越教育長にお願いする。

### 議事録署名委員の指名

#### 【山越議長（教育長）】

議事録の署名について油野市長、教育委員からは粕野教育長職務代理者をお願いする。

### 協議・調整事項

#### (1) こども家庭センターの取組と学校との連携について

#### 【山越議長】

協議・調整事項に入ります。「こども家庭センターの取組と学校との連携」について、こども家庭課より説明を求める。

#### 【清水こども家庭課長】

(資料により、こども家庭センターの取組と学校との連携について説明。)

#### 【山越議長】

今の説明に対して質疑ご意見があればお願いする。

#### 【粕野教育長職務代理】

特定妊婦の認定人数は。

#### 【清水こども家庭課長】

現在はいない。子どもを産んでしまうと特定妊婦とは言わない。

子どもがお腹の中にいる状態で精神的に不安定な方のことである。

#### 【粕野教育長職務代理】

特定妊婦の判断は市が行うのか。

#### 【清水こども家庭課長】

そのとおりである。

#### 【山越議長】

こども家庭センターは教育委員会や関係者としても非常に期待している機関である。

資料にある妊産婦さんや子育て世代の子ども達が、こども家庭センターに相談に行く流れはわかるが、ここには心理士、保健師、社会福祉士等の専門的な職員が配置されると思うが、現実的に学校の部分で言えば、学校に保護者や子ども達が相談に来ることが

非常に多くある。そういうところに来た案件はこども家庭センターに吸い上げてもらう仕組みはあるものなのか。全部とは言わないが、もちろん学校で解決できる問題もあるし、ただ、専門的な人にアドバイスを頂けるようなことを是非してもらいたいと思っているがそのへんはどうか。

**【清水こども家庭課長】**

子ども家庭センターに直接入ってくる相談については専門的な職員で対応していければと思っている。ただ、こども家庭センターに直接入ってくる相談に対しても、学校で受けた相談に対しても、こちらにこんな相談があったと言って頂いて、それに対してどういった関わりをもっていけばいいのか、どういうアドバイスをしていけばいいのか、ということ併せて、こちらの児童相談所なり心理士なりが専門的な立場の者と一緒に相談しながら進めていければと思っている。

**【山越議長】**

市長ご意見ありますか。

**【油野市長】**

しっかりやっていって頂きたい。

**【山越議長】**

この件についてはお互いに連携して、子どもが真ん中でいい取り組みとなる様、協力していきたいので、よろしくお願いします。

## (2) 不登校児童生徒対策について

**【山越議長】**

不登校児童生徒対策について、学校教育課より説明を求める。

**【山川学校教育課長】**

(資料により、不登校児童生徒対策について説明。)

**【山越議長】**

この議題については、過去にもこの会議で取り上げてきているが、なかなか改善の方には向かっていかないというのが残念ながら現状である。

質疑ご意見があればお願いします。

**【長柄委員】**

こういう新しい新チームを作って連携を持ってやって頂きたいと思うが、結局最終的な目標は、将来教室に戻って行ってもらえるというのを拠点にしていくという理解でいいのか。

**【山川学校教育課長】**

それも大きな柱であるが、学級復旧を一番に考えていない。いろんな多様な児童生徒の居場所を作る、体質的にはやはり多数の中に混じれないという特徴があるかもしれない、そういう子にいくら支援しても、最終的に皆のところに戻るんだよと無理強いすることはどうかと思う。それができる子とできない子がいる、それを見極めながら支援プログラムを決めていく、それが大きな考え方かなと思っている。

**【長柄委員】**

ということは、別室登校で卒業してもいいんだという気持ちもあるということか。

**【山川学校教育課長】**

はい。教職員に対しても意識改革してほしいのは、別室登校というのは別に悪いと思っ  
てほしくない、これも1つの形態なんだと、意識を持って頂きたいと思っている。

**【長柄委員】**

はい。

**【山越議長】**

これは今の流れというか、国もそうですし、事実なのだろう、と。よし悪しは別とし  
て、そうなんだろうと思う。

**【諸井委員】**

CoCoRo プラン、心地がよくてそれぞれの居場所の環境を提供するというような意味な  
のかな、と考えているが、今現在にも別室登校の子ども達がいて、その子達に関しては、  
養護教諭による保健室登校であったりとか、空いている先生がその子達を見るというよ  
うなかたちだったと思うが、それを今ホットルームというのでその子達がいるべき場所  
を作るというのが形だと思うが、それに合わせてそこに誰か要らと思ったなら、3人と  
言っている支援員は各学校に1人ずつ配置するとなったら足りないような気はするが、そ  
こは他の方々と連携しながらやっていくという考えか。

**【山川学校教育課長】**

1人の人が1人にべったり付くということは全く考えていない。その日によって、曜  
日によって来る子は違う。状況を見ながら分担してやっていく。メインとなるのはSS  
Rの担当教諭であったり、特別支援教育員であるが、べったり付くわけではない。そこ  
はうまく分担していくということで、やっていくしかないが、想定以上に人数が多かっ  
たりとかしたら、考えていく必要があるが、先ずはこの体制でやっていきたいと考えて  
いる。

**【長柄委員】**

わかりました。

**【山越議長】**

この件に関しては学校としても大きな課題というか、こういう場所を作るというこ  
とに対して、今現在必ずしも教員の全てが理解しているわけではないと思う。半分くらい  
の教員は、ここへ行くのは甘えた子達が行くんだという、昔的に言うと強い生徒指導の  
意識がある。でも今は全ての子達に寄り添うという多様性の時代というのが国からの主  
流ということになっているので、こういう部屋というのを皆で認めていきましょう、と  
いうのがこの制度の一番の狙いなのかな、と。ただ、支援員が足りないのではないかと  
諸井委員からもありましたが、人手不足で、今も募集しているが、なかなか人が集まら  
ないというのが大きな課題である。これは学校の支援員だけではなくて、市でもいろん  
な福祉の関係、保育士も人が集まらないという大きな現実的な課題である。予定の人数  
が確保できるがわからないが、学校皆で協力してやっていこうという取組なのかな、と  
思う。

**【油野市長】**

現実には人が集まらないということがいっぱいある。

**【山越議長】**

いろんなところで人手不足が顕著である。

**(3) 熱中症対策及び異常気象対策について**

**【山越議長】**

熱中症対策及び異常気象対策について、学校教育課より説明を求める。

**【山川学校教育課長】**

(資料により、熱中症対策及び異常気象対策について説明。)

**【山越議長】**

これはできるできないというのはこれからの話であって、こういう制度の立て付けを事務局が検討しているというレベルで聞いておいて頂きたい。またこれは地震前に作った計画である。

質疑ご意見があればお願いします。

**【竹中委員】**

自分は中学校で部活動指導をしている立場であるが、去年の夏なんかは非常に暑くて、暑さのせいで部活ができない、ただでさえ先生方の負担を減らすために時間も短くなって、日数も少なくなって、その中で子ども達の体力低下とか考えながら部活動を一生懸命やっていきたいという思いがあり、環境整備というのはすごく大事な部分だと思いますし、震災で避難所となったことで部活動ができないという部分も出てきているし、環境を整えておけば避難所になったときも暖かい環境で、震災の関連死の問題で低体温で亡くなる方が多いとか聞いてますし、夏場の災害だと中学生に関わらず避難してきた方の熱中症であったりとか考えると、優先的に取り組む事案なのかと思う。

**【鮎野委員】**

財源は2種類あると思うが、宇ノ気中学校は社会体育施設ということで2番、金額的にどっちのほうがいいのか。社会体育施設と認められなければ2番のほうで申請できないのか。予算がたくさん出るほうに充てたほうがいいと考えるが。

**【山田教育部長】**

どちらか選ぶということではなく、宇ノ気中学校は社会体育施設という位置づけになっているので。学校施設は学校施設の補助金である。高松中学校と河北台中学校は1番ですし、宇ノ気中学校は2番である。こちらで選ぶということではなく、ルールで決まっている。

**【油野市長】**

宇ノ気町時代から宇ノ気町の体育館という位置づけになっている。だから社会体育施設である。決して市のほうで良いほうで申請することではなく、ルールで決まっているという解釈をして頂きたい。

**【山越議長】**

結果的には、今想定している事業で言うと、1番も2番もほぼ同じであるが、若干2番の方が徳だったかなという程度である。

**【油野市長】**

3月の補正で上がってくるのか。

**【山川学校教育課長】**

国のほうから採択してもらえるかどうかによります。

**【油野市長】**

震災もあったので配慮はしてもらえると思っている。

子ども達の環境整備という面で絶対必要であるので、小中学校全部しっかりやっ  
ていくつもりである。

**【山越議長】**

今年度3件の協議議案について協議ができた。

会議終了時間となりましたので議事進行を事務局にお返しする。

**閉 会**

**【山田教育部長】**

以上で、令和5年度かほく市総合教育会議を閉会します。

お疲れ様でした。

午後2時20分閉会

議長（教育長）                      山 越                      充

署名（市 長）                      油 野                      和一郎

署名（教育委員）                      粕 野                      武 利